

共同研究 布の製作と利用に関する総合的研究

期間：2019年～

[所員] 昆 政明 内田青蔵 大川 啓 小熊 誠 佐野賢治 須崎文代 関口博巨
泉水英計 高城 玲 平井 誠 廣田律子 前田禎彦 安室 知

布の製作と利用に関する基礎調査

昆 政明

布は人の生活にとって欠くことのできないものである。用途にとってさまざまな材料から糸が紡がれ、布に織られてきた。本研究はさまざまな材質の糸が布となり、それがどのように利用されたかを総合的に研究する。利用の中心は衣類である。衣類に使用される布は時代や使用目的によって変化する。また、布の利用は衣類以外にも多岐にわたっており、使用目的によって必要とされる素材も変化する。本研究は素材による布の性質の違いが、その利用にどのような影響を与えたかを、総合的にとらえることを目的としたものである。



写真1 からむし工芸博物館展示調査



写真2 からむし工芸博物館資料調査

今年度は、2020年度夏のオリンピック開催に合わせて予定されていた、日本常民文化研究所と横浜市歴史博物館との共同展へ協力を念頭に特別展のテーマに沿った調査活動を行った。特別展では木綿普及以前の衣服を中心に展示計画であったため、木綿以外の自然素材、特に麻に関する布、衣服の調査を重点的に行った。また、研究材料として自然素材の布の資料購入を行った。

調査は福島県会津地方、米沢市、青森県を中心に、調査の実施には関係各博物館、教育委員会の協力を得て行った。調査は木綿以前の麻を中心とする自然布（出羽の織座米澤民藝館では原始布と称している）で製作使用された日常着、特に仕事着を中心に調査を進めた。企画展示では津軽のごぎん刺し、南部の菱刺し、庄内刺し子、会津刺し子など工芸的にも評価の高い資料も多く展示される予定であるが、さまざまな自然素材による布製品も多く見られ、文書記録では木綿の普及が当初考えていたよりも早い時期から広く使用されていたこと、ごわごわした肌触りの素



写真3 会津民俗館展示資料調査



写真4 渡部コレクション寄託資料調査 (福島県立博物館)



写真5 出羽の織座米澤民藝館調査 (「原始布」)



写真6 出羽の織座米澤民藝館調査

材と考えられていた麻が、使い込むほど木綿製品と判別困難になるほど柔らかな素材となることが分かってきた。また、漁師が出漁するときには木綿より麻が使用されるが、それは布の強さだけではなく、防水性や保温性に優れているなど、自然布に関し歴史、民俗さまざまな観点からの研究を進めていく価値をあらためて認識させられた。

しかし、新型コロナウイルスの流行により、オリンピックの1年延期に合わせ企画展の開催も1年順延されることとなり、予定していた調査の多くを中止した。また、研究テーマの共通理解を深めるため、3回の勉強会の開催を企画していたが、これも開催を中止した。

■ 2019年度の活動

- 古代布、渡部つとむ仕事着コレクション、麻布の調査 2019年9月16日・17日 出羽の織座米澤民藝館、会津民俗館、からむし工芸博物館 昆政明・刈田均・加藤友子
- 古代布の調査と渡部つとむ仕事着コレクションの調査 2019年11月4日 福島県立博物館 昆政明・刈田均・窪田涼子・加藤友子
- 青森県有形民俗文化財「青森のさしこ着」調査 2019年11月18日・19日 青森中央市民センター戸門分館 刈田均・窪田涼子・加藤友子
- 渡部つとむ仕事着コレクション、麻布、自然布調査 2019年12月22日～24日 福島県立博物館、会津民俗館、出羽の織座米澤民藝館 昆政明・佐野賢治・刈田均・窪田涼子・加藤友子
- 楮蒸し作業調査、いの町紙の博物館展示調査 2020年1月13日～15日 太布庵、いの町紙の博物館 刈田均
- 展示に関する打合せ、資料調査 2020年1月31日 良品計画、小川商店 昆政明・刈田均・窪田涼子・加藤友子